

各位

全6ページ
登録速報(2019-006)
2018年11月 7日
クミアイ化学工業株式会社
企画普及部普及課

登録速報

下記の通り適用拡大登録となりましたので、ご連絡します。

適用拡大登録年月日：2018年11月 7日

記

1. 農薬の登録番号及び名称

登録番号：第23552号

名称：ヤブサメ豆つぶ250

2. 適用病害虫の範囲又は使用方法の変更の内容

農薬登録申請書第7項中、以下を変更し、別紙1【変更後】のとおりとする。

- ① 作物名「直播水稻」を追加する。
- ② 作物名「移植水稻」の使用方法「湛水散布、湛水周縁散布又は無人ヘリコプターによる散布」を「湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布」に変更する。

3. 当該変更に伴い、農薬登録申請書の記載事項に変更を生ずるときは、その旨及び内容

- ① 農薬登録申請書第8項中、4)、11)を変更、8)を追加し以降を繰り下げ、別紙2【変更後】のとおりとする。

【変更前】

- 4) 湛水散布または湛水周縁部散布の際は、やや深めの湛水状態（水深5～6cm）にして水の出入りを止めること。
- 11) 無人ヘリコプターで散布する際は以下に注意すること。

【変更後】

- 4) 湛水散布または湛水周縁散布の際は、やや深めの湛水状態（水深5～6cm）にして水の出入りを止めること。
- 12) 無人航空機で散布する際は以下に注意すること。

【追加部分】

8) 直播水稻に使用する場合、以下の点に注意すること。

- ①発芽直後の稲に対して薬害を生じるおそれがあるので、適切な覆土をおこない、稲の1葉期以降に散布すること。
- ②稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
- ③除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布すること。

② 農薬登録申請書第10項中、3) を変更し、別紙3【変更後】のとおりとする。

【変更前】

2) 無人ヘリコプターによる散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意すること。

【変更後】

2) 無人航空機による散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意すること。

別紙 1

【変更前】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ オモダカ クログワイ コウキヤガラ ミスガヤツリ アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植後 3 日～ ノビエ 2.5 葉期 但し、移植後 30 日まで	250g/10a	1 回	湛水散布、 湛水周縁散布 又は 無人ヘリコプター による散布

ピラコニルを含む農薬の総使用回数	ピリミスファンを含む農薬の総使用回数	フェキサスリンを含む農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

【変更後】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ オモダカ クログワイ コウキヤガラ ミスガヤツリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後 3 日～ ノビエ 2.5 葉期 但し、移植後 30 日まで	250g/10a	1 回	湛水散布、 湛水周縁散布 又は 無人航空機 による散布
直播水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヒルムシロ アオミドロ・藻類による表層はく離	稲 1 葉期～ ノビエ 2.5 葉期 但し、 収穫 90 日前まで			湛水散布 又は 無人航空機 による散布

ピラコニルを含む農薬の総使用回数	ピリミスファンを含む農薬の総使用回数	フェキサスリンを含む農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

【変更後】

8. 使用上の注意事項

- 1) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2. 5葉期までに、時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ヘラオモダカ、ウリカワは2葉期まで、ホタルイ、ミズガヤツリは3葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- 2) オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないなので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用すること。
- 3) 苗の植付けが均一となるように、代かきおよび植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- 4) 湛水散布または湛水周縁散布の際は、やや深めの湛水状態（水深5～6cm）にして水の出入りを止めること。
- 5) 湛水散布の場合は田面に散布し、また、湛水周縁散布の場合は、水田周縁部に沿って帯状に散布し、散布後3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、入水は静かにおこなうこと。
- 6) 藻類・表層はく離などの水面浮遊物が多い場合は、本剤の拡散が不十分になるおそれがあるため周縁散布をさけ、本田内で水田全面に散布すること。
- 7) 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
 - ①砂質土壌の水田および漏水田（減水深が2cm/日以上）
 - ②軟弱苗を移植した水田
 - ③極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田
 - ④植穴の戻りの悪い水田

8) 直播水稻に使用する場合、以下の点に注意すること。

- ①発芽直後の稲に対して薬害を生じるおそれがあるので、適切な覆土をおこない、稲の1葉期以降に散布すること。
- ②稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
- ③除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布すること。

- 9) 散布後に多量の降雨が予想される場合は、除草効果が低下するおそれがあるので使用をさけること。
- 10) 散布後の数日間に著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- 11) 本剤は吸湿性があるので、散布時に降雨の場合には濡れないように注意して散布すること。濡れた手で扱わないこと。また、開封後は早めに使用すること。
- 12) 無人航空機で散布する際は以下に注意すること。
 - ①散布は使用機種の使用基準に従って実施する。

- ②専用の粒剤散布装置によって湛水散布する。
 - ③事前に薬剤の物理性に合せて粒剤散布装置のメタリング開度を調整する。
 - ④散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5 m以上離して圃場内に散布する。
 - ⑤水源池、飲料用水などに飛散、流入しないように十分注意する。
- 13) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
 - 14) 本剤を散布した水田の田面水を他の作物の灌水に使用しないこと。
 - 15) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意すること。
 - 16) いぐさ栽培予定水田では使用しないこと。
 - 17) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

別紙3

【変更後】

10. 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- 1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- 2) 無人航空機による散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意すること。
- 3) 散布後は水管理に注意すること。
- 4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

以上